

おくすりQ&A

風疹のワクチン接種について



昨年から今年にかけて風疹の流行が続いており、特に首都圏を中心に感染が拡大しています。風疹を予防するにはワクチンの接種が最も効果的です。

Q. 子供のころ風疹にかかりましたが、予防接種は不要ですか？

A. 一度風疹にかかった人は多くの場合、風疹に再度かかることは生涯ないといわれています。しかし、子供のころに風疹にかかった記憶があっても、実際は「はしか」や「リンゴ病」など別の病気だったことを、本人や親が勘違いしているケースが少なくありません。**記憶があいまいな場合は、ワクチンの接種をおすすめします。**もし過去に風疹にかかっていたとしても、予防接種を受けることで免疫強化が期待されるので、より安心です。

Q. どのような人が予防接種を受ける必要があるのですか？

A. 妊娠初期に風疹に感染すると、**赤ちゃんに障害が出るおそれがあるため、特に妊娠を希望している女性**やその配偶者、家族は積極的に予防接種を受けるようにしてください。また、ワクチンを接種していない、あるいは接種が1回のみのため抗体が不十分で感染が広がっている年代が、**昭和37年4月2日～54年4月1日生まれの男性、昭和54年4月2日～62年10月1日生まれの男女、昭和62年10月2日～平成2年4月1日生まれの男女**です。この年代もなるべく早く予防接種を受けるようにしてください。



接種記録をお持ちの方は、回数を確認してみましょう。1回の予防接種では時間の経過にともなって抗体が減少し感染する可能性があるため、ワクチンの効果は100%とは言えません。現在は、定期接種として2回の接種が実施されており、より高い効果が得られています。

Q. 接種の費用はいくらですか？ 自治体の補助は受けられますか？

A. 風疹ワクチンの接種は、最寄りの内科や小児科で受けることができます。風疹のワクチンには風疹だけを予防する「**単独ワクチン**」と、風疹と麻疹の両方を予防する「**混合ワクチン**」の2種類があります。費用は「単独ワクチン」が4,000～8,000円前後、「混合ワクチン」が7,000～1万2,000円前後といわれています。接種には保険が適用されないため、地域や医療機関ごとに費用は異なりますので、事前にご確認ください。市区町村によっては、接種費用の一部または全額を助成するところもあります。東京都内や近郊の自治体の補助制度については、**東京都感染症情報センターのサイト**をご覧ください。また、医療機関にワクチンの在庫がない場合もあるため、電話で確認してから受診することをおすすめします。

執筆薬剤師 大石 浩代

わたらの健康とくすり

第210号



今月の内容

- 眼底検査でわかる眼科の病気～その3～
- 夏の脱水症状に注意
- 風疹のワクチン接種について

ハナハッカ (シソ科)

「オレガノ」とも呼ばれる、ヨーロッパ原産のハーブの仲間です。株元から多数の枝を出し、高さは50cmほどになります。葉は卵形で小さく、対生します。茎にも葉にも短い毛が生えています。花は茎頂や枝の先に多数付き、白～淡紅色です。全草に精油を含み、独特の芳香があります。この精油には抗菌・抗ウイルス作用があり、感染予防に使われます。

写真・文 指田 豊

2013年7月発行

発行者 八王子薬剤センター 茂木 徹

東京都八王子市館町 1097 電話 042-666-0931

協力 八王子薬剤師会

視神経乳頭陥凹

眼底検査でもっとも高頻度に指摘され精密検査を指示されるのが、この「視神経乳頭陥凹」でしょう。視細胞からの情報を脳につなぐ視神経線維は、網膜上で集合して眼球外へ出ますが、このとき視神経線維は直角に折れ曲がって、リング状の窪みになります。窪みの外周と内周の直径比を陥凹/乳頭比 (C/D比) と呼び、これが0.6を超えると折れ曲がり異常に大きいと判断され、視神経乳頭陥凹と呼びます (右図)。視神経乳頭陥凹では視神経線維が折れ曲がっている部分に圧力 (眼圧) が加わることで神経線維が損傷し、視野欠損が起こってくると考えられています。この状態を緑内障と呼びます。ですから視神経乳頭陥凹を指摘されたら、まず視野検査を行って、視細胞の損傷程度を明らかにする必要があります。

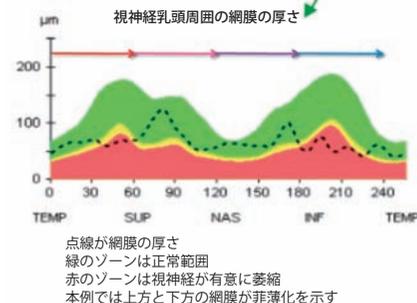
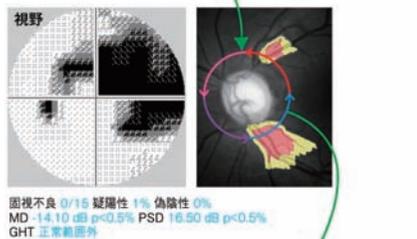
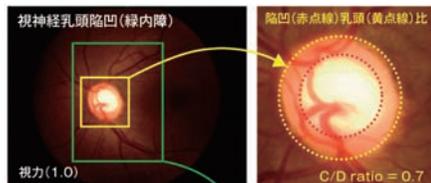
ただし、緑内障診療の難しさは、1億個もある視細胞の70%以上が障害されないと視野障害が見つからないことで、**視野異常が見つかった時には病状が相当進行している**ことなのです。ですから、視神経乳頭陥凹が発見されたら、視野異常が見られなくとも、**眼圧を下げる**ことで視神経線維の屈曲部への障害をやわらげる治療を開始することが多いです。

現在では視神経線維の網膜での厚さを測定することができるようになります (図)、視野異常が起こる以前に菲薄化することが判って、**緑内障の早期診断が可能**になってきています。

もっとも、検診における視神経乳頭陥凹の発見率は10%前後に対して、緑内障の有病率は5%程度といわれています。ですから、視神経乳頭陥凹があったからといって、すなわち緑内障というわけではないようです。まず、**緑内障専門医への診察**が必要ですね。

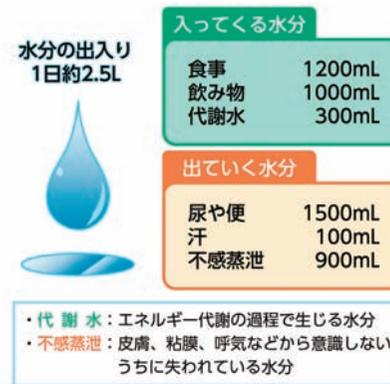
視神経乳頭浮腫

視神経乳頭およびその周辺が浮腫を起こす病態です。**視神経周囲が白っぽく見え、網膜との境界が不鮮明**になります (右図)。視力や視野の異常は程度差が大きいため、診断の決め手にはなりにくいです。病的意義のない「偽浮腫」と呼ばれる場合も少なくありませんが、脳出血や脳腫瘍による脳圧亢進の場合にも認められるため、特に**両眼性**の場合は脳神経科での診察が必要になります。また、視神経炎などの炎症疾患によっても起こってきます。この場合は視力や視野が著明に悪化することがあり、抗炎症治療が選択された場合は長期入院の可能性がありま。いずれにしても、**指摘された場合は早急に神経眼科専門医の診察**が必要です。



夏の脱水症状に注意

大人の体の約60%は水分できており、水分は体温調整をするのに重要な働きをしています。人は1日に2.5Lの水分を出し入れしていると言われ、その大まかな内訳は右図の通りです。普段は体から出ていく水分と入ってくる水分のバランスが取れていますが、運動や温熱環境のために発汗量が通常より多いときには、このバランスが崩れることも。体から出ていく水分が通常より多くなると、それに見合う水分量の確保ができず、脱水状態を引き起こす可能性があります。夏場に多い**熱中症は、脱水により体温調節がうまく行われないために起こります。**



水分補給のポイント

水分が不足しやすいのは、就寝や入浴の前後、スポーツの前後・途中、飲酒中あるいはその後です。このようなときは、**のどが渴いたと感じる前にこまめな水分補給**を心がけることが重要です。また、日常生活のなかでいつでも水分が摂れるように、飲料を携帯するのがよいでしょう。その際、糖分や塩分などの濃度が高いと、吸収までの時間が長くなるので注意が必要です。また、アルコールや多量のカフェインを含む飲料は、尿の量を増やし体内の水分を排泄してしまうので、水分補給としては適しません。

経口補水液とは？

脱水症状では水分だけではなく、**塩分や糖分なども失われます**。塩分や糖分などを含み、体液に近い成分に調整されたものが、経口補水液です。一般的なスポーツドリンクに比べると糖分が抑えられているため、美味しいものとは言えません。脱水症状のとき注射や点滴ではなく、それと同様の成分を含む経口補水液を口から摂取して症状を回復させる経口補水療法が、近年注目されています。**夏場で発汗量が通常より多いときや、発熱や下痢、嘔吐などで医者にかかった際に「脱水に注意しましょう」と言われたときには、経口補水液を利用するとよいでしょう。**なお、経口補水液は心臓や腎臓などに負担をかける場合があります。ナトリウムやカリウムなどの電解質の摂取に制限を受けている方は、医師・薬剤師に相談しましょう。

